

大淵の

穴原の子安さん

平成二年七月五日号

大淵・穴原に地域の婦人会の皆さんが中心になってお祭りしている子安さんがあります。今回は穴原一の勝亦さか江さんに、子安さんに伝わる話を伺いました。

鬼子母神を祭る

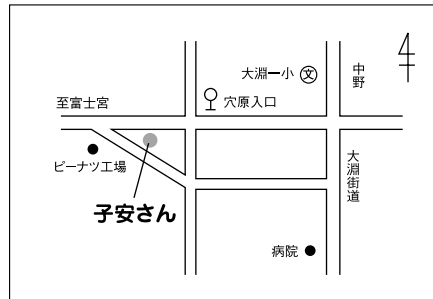
江戸時代後期のころです。大淵の穴原に稲葉さんという産婦人科のお医者さんがいました。医師など満足にいなかった時代ですから、人々は稲葉さんを頼りにし、稲葉さんも心優

しい人でしたので、人々の信望を集めていました。

子どもが授からない人、授かっても難産で苦しんだり、せつかく産まれた子どもを幼くして亡くしてしまった人など、人々のいろいろな苦しみを見てきた稲葉さんは、自分の家の竹林に子安堂を建て、鬼子母神を祭りました。

安産のお告げ

あるとき、子宝に恵まれない夫婦が、子安さんにお参りしました。すると、ほどなく二人に待望の子どもが授かりました。二人は大喜びで、その後も「無事丈夫な子どもが産まれ





▲ 子安さんのほこら（平成14年2月撮影）

ますように」とお参りを欠かしませんでした。ある晩のこと、妻の夢まぐらに「子安堂に上げて小さくなつたらうそくを、陣痛が来たらともしなさい。ろうそくが消えるまでに丈夫な赤ちゃんが産まれるだろう」というお告げがありました。

お告げのとおりに、ろうそくをとますと、玉のような赤ちゃんが生まれました。

霊験あらたかですよ

勝亦さんは「お堂には、享和・文化きょうわという年号の木札が残されています。今は、穴原婦人会の皆さんが旧暦の三月十五日にお堂に集まり、地域の子どもたちにお赤飯をふるまっています（平成二年）。実際に、お参りしたら子宝に恵まれたという話は、今でも聞きますよ」と話してくれました。

語ってくれた方

勝亦さか江さん